

恋愛のかたちは、すべて「フランス映画」が教えてくれる
最新刊『フランスの男と女は、歳をとるほど恋をする』7月30日発売
多様な恋愛のかたちの紹介を通して「心の自由」について考える

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、7月30日に、当社出版物の最新刊として、『フランスの男と女は、歳をとるほど恋をする』を発売いたします。本書は、フランス映画の製作・配給を手掛ける株式会社巴里映画の代表である著者・高野てるみ氏が、『ボンヌの恋人』『シェルブールの雨傘』『男と女』など、様々な名画に託してフランスの男女の多様な恋愛のかたちを紹介しています。

- 書名：『フランスの男と女は、歳をとるほど恋をする』
- 著者：高野てるみ
- 出版社：有隣堂
- 定価：税込2,200円（本体2,000円＋税）
- 体裁：46判並製・本文320頁
- ISBN：978-4-89660-250-0
- 発売日：2024年7月30日（火）
- 取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店
- 内容：

フランスの男と女は何歳になっても「人を愛する」ことに情熱的で、恋愛が人生そのもののようにさえあると著者はいう。そんな彼女らの恋愛事情は、フランス映画に象徴的に表れている。本書は、フランス映画の製作・配給を手掛ける「巴里映画」の代表である著者が、『ボンヌの恋人』『シェルブールの雨傘』『男と女』など、様々な名画に託してフランスの男女の多様な恋愛のかたちを紹介する。日常のなかの非日常を描く作品が多いフランス映画は、「現実」が「映画」に、「映画」が「現実」に」という揺らぎのなかで、人々を「様々な恋愛のかたち」にいざなう。映画のなかの恋愛を紹介しながら、その作品の魅力、監督・俳優たちをめぐる実際の恋愛事情など、フランス文化の重要な要素である「恋愛」に、映画を通じて様々な角度からアプローチする。

【目次】

- 序章 フランスの男も女も、おとぎ話のような恋をする
第1章 何度でも恋に落ちるフランスの女たち
第2章 ミューズがいないと、恋愛映画はできない
第3章 危険な恋で、誘惑する美しき男たち
第4章 恋をいざなうファッション



■ 著者紹介

高野てるみ（たかの・てるみ）

映画プロデューサー、シネマ・エッセイスト、株式会社巴里映画代表取締役。東京生まれ。美大卒業後、新聞記者を経て『anan』などの女性誌の編集者・ライターに。その後、洋画の配給・制作会社の巴里映画を設立。多くのフランス映画を配給・製作する。主な著書に、『ココ・シャネル 女を磨く言葉』『プリジット・バルドー 女を極める 60 の言葉』（ともに PHP 文庫）、『仕事と人生がもっと輝くココ・シャネルの言葉』（イーストプレス）、『職業としてのシネマ』（集英社新書）などがある。



■ 本書のみどころ

・恋愛のかたちは、すべて「フランス映画」が教えてくれる

フランスの独創性を「恋愛の自由があるから」と分析するのは本書の著者・高野てるみ氏。何歳になっても情熱的でまっすぐなフランスの男女の恋愛は、ときに今の安定した生活を壊してでも突き進む激しさを持っています。「恋することは、生きること。フランスでは、『衣食住・恋』が人生」と語る著者は、フランス映画が描いてきた様々な「恋愛のかたち」を通じ、その魅惑の世界を明らかにしていきます。

- ・純愛とは、叶わなかった恋のこと—『シェルブールの雨傘』
- ・愛する人を失った男と女の恋—『男と女』
- ・「君はみんなと違う」。その殺し文句が恋の決め手—『勝手にしやがれ』
- ・三回目の結婚で幸せは掴めるのか—『キングス&クイーン』

……など、名画を中心に、その世界観が語りかける恋愛の様々なかたちを紹介し、「人を愛するとは」「本当の心の自由とは」を読者とともに考えていきます。

忙しい日常のなかで疲れ切ったとき、「自分の心に素直に、大胆に生きる」フランスの男女の生き方に、ちょっと自分の枠を飛び出して夢の世界に心を遊ばせられる読み物です。

■ 有隣堂の出版物の紹介

- ・単行本 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko>
- ・新書 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho>